

事業のタネシート

活動地域・団体名：宮古島市

事業名称1：「千年祭（伴走支援によるSDGsプロジェクトの創出及びその成果発表イベント）」の実施

あらすじ

近年SDGsが国際的潮流となっている中、本市においても、本市が持続可能であるために活動したいと考えている市民や団体が多く現れてきた。このような流れを受け、産官民が連携した「宮古島SDGs推進プラットフォーム」を構築し、市民や団体のSDGsプロジェクトのタネを自立的・持続的な取り組みに育てることで、持続可能な島づくり＝「エコアイランド宮古島づくり」に資する。

本市がこれまでエコアイランドのブランド化を図ってきた事業の成果であるコミュニケーションツールを同プラットフォームに組み込み、プロジェクト育成の課程を発信することで、プロジェクトに対する共感、人的支援、寄附などにつなげるとともに、地域経済分析などを行い、情報提供や助言などのシンクタンク的支援も行う。これらの伴走的な支援による集大成として創出したプロジェクトを発表する場として、「【千年祭】～千年先の、未来へ。フェスタ～」を開催する。

ストーリー

本市は平成20年に「エコアイランド宮古島宣言」を行い、再生可能エネルギーの普及や循環型社会の構築に向けた様々な取り組みを行ってきた。また、平成30年には「千年先の、未来へ。」の標語を掲げた「エコアイランド宮古島宣言2.0」を行い、同宣言を「宮古島市版SDGs」と位置づけている。

そのような中、伊良部大橋の開通をきっかけとして観光客数が激増し、島の経済は活況を呈したが、島外資本による経済体系、開発による自然環境への負荷やゴミの増加や建築単価の高騰による家賃の大幅な値上がりなど、市民生活への影響が顕著になり、市民の不満・不安が大きくなった。

このような経緯から、産業振興と併せて、環境保全、安心・安全な市民生活の確保など、「環境・経済・社会」の同時向上、SDGsの視点を持った島づくりの気運が高まり、本市が持続可能な島であるため取り組みを行いたい市民や団体が現れてきた。この意欲ある活動を自立的・持続的なものに育てるため、①情報発信、②人材育成、③情報提供及び助言の3つの機能を有した「SDGs推進プラットフォーム」を構築する。

同プラットフォームを通して多くのSDGsプロジェクトを創出することにより、エコアイランド宮古島づくりに貢献する。

		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	多くの市民が持続可能な島づくりに取り組み、環境・経済・社会が相互に向上した持続可能な島＝「エコアイランド宮古島」が実現していること	プラットフォーム自体が自立的・持続的に運営していくための資金をどうまかなっていくのかの課題がある。また、運営をする上での事務局は、市役所だけでなく民間と協働する体制が重要であると考えており、組織のあり方についてもさらに議論を重ねる必要がある。
②課題	可能客激増に伴う環境や市民生活への影響によりSDGsの気運が高まり、活動したい市民がいるものの、相談窓口や支援体制がわからない。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	市民・団体の持続可能な島づくりに向けた活動を支援し、「エコアイランド宮古島」の実現に貢献する。	
④地域資源	人（協力的な気質） 金（持続可能な取り組みに共感することに寄る寄附）物（農作物や太陽光などの自然エネルギー） 事（伝統文化など）島の有利性（離島であること、地下ダムなど）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	SDGsアイデアのブラッシュアップ・仲間やファンづくり支援・資金調達に関するメニュー紹介や申請支援 創出したプロジェクトに対するGCF	
⑥担い手（Who）	宮古島SDGs推進プラットフォーム	
⑦事業で生じる循環	プラットフォームとして対話の場創出→アイデアがPFに入る→ブラッシュアップ→情報発信ツール等で仲間やファンの増加→更にブラッシュアップ→SDGsプロジェクトとしてレベルアップ→資金調達支援等の伴走→SDGsプロジェクトの実行	
⑧事業で生じる成果	「環境・経済・社会」に寄与するSDGsプロジェクトの創出・実践を発信することで市民意識の啓発を図り、さらなるプロジェクト創出へと繋がる好循環が生まれ、持続可能な島づくりに向けた活動の好循環が生まれる。	

事業名称2：個人商店空き地で、女性中心の3万円ビジネス

あらすじ

子育て中、専業主婦、副業、あらゆる立場で友利地区に住む女性を中心に、「新しい個人商店」を作る。新しい個人商店は共同で運営し、地域に不可欠な居場所となる。

ストーリー

友利地区では、以前個人商店が数店立ち並んでいた。それは生活必需品の購入だけではなく、地域住民の憩いの場としての機能も果たしていたのだ。高齢化に伴い閉店を余儀なくされたお店を、地域に住む女性たちの力を集結させて「新たな個人商店」を展開する。「月3万円を稼ぐ」ことを目標とする3万円ビジネスを軸に、各人が持つ得意分野（野菜づくり、天ぷらづくり、マッサージなど）を時間が許すタイミングで1箇所の施設で展開する。自分の得意×ビジネスで地域に還元していくシステムを構築することを目指す。誰でも挑戦できる場は憩いの場につながり、地域住民の精神的な拠り所にもなることを目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	友利に住む女性たちが、「やりたい」を実現するスペースとなっている	・プラットフォームの中で、宮古島を持続可能にできる事業アイデアか否かを検討する必要がある。 ・廃墟となった個人商店をリフォームする必要がある
②課題	買い物する場所がない・集う場所が限られている・空き地が目立ってきている・子育てを終えた女性の居場所が無い	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域のことは、地域住民の手で解決できる仕組みを作るため	
④地域資源	・地域に住む女性たち（農家・マッサージ師、料理が得意、遊びのプロ） ・農作物・自然・横のつながりが強いこと	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	空き店舗となった個人商店を改造して、共同運営型のスペースを作る。そこでは女性が得意なことを地域住民に気軽に提供することができる。地域の困りごとを解決する場。	
⑥担い手 (Who)	地域に住む女性たち（農家・マッサージ師、料理が得意、遊びのプロ）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	自分がやりたいことができる→友利地区にとって必要なモノとなる→地区での役割ができる→地域を「自分事化」する人が増える→地域を動かす人が増える	・経営のノウハウを教えられる人 ・リフォーム会社
⑧事業で生じる成果	地域内に経済圏ができる・域内循環が構築される・「新しいことに挑戦できる地域」というブランド化もできる	

事業名称 3 : 屋根に第三者所有モデル設置と貸与による空き家予防プロジェクト

あらすじ

島内では観光需要の急激な伸びにより、建設需要も急増したことによりアパートが増加した。しかし、島の市街地に集中していること、子育て世代等は利便性を求めて市街地へ居住すること、空き家はあっても仏壇があること等の課題により住むことができない。地域においては、空き屋をどうにかしたいという課題はあるものの良い解決方法が見つからない。

ストーリー

宮古島市では住宅不足による家賃高騰と島外資本による住宅整備が進んでおり、移住者増による恩恵が島に還流しにくい構造にある。地域にある家屋が相続に伴って所有権が島外に流出することを予防し、地域の資本として移住者に貸し出す（借家料が地域に還流する）ことは地域経済循環を高めることにつながる。また、宮古島市のエネルギー（電気業）は移入超過にあり、エネルギーの自給力を高めることが重要な構造にある。狩俣地区では、本年度モデル事業として集落拠点施設への第三者所有モデルでの太陽光パネルの設置、EV車による蓄電・送迎サービスに着手している。これらの事業と連動し、住宅へのパネル設置と売電の仕組みがモデル化されることで、今後、他の住宅への設置・普及も期待でき、これはエネルギーの地産地消（地域内循環）につながる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	「空き家」が負の遺産としてではなく、地域において島外の資金や情報を呼び込む地域資源として活かされ、第三者所有モデルとの連動により脱炭素化に寄与	地域循環共生圏に資するプロジェクトのタネであるが、事業として成り立つのか、また持続性はあるのか、法的に問題は無いのか、その他の課題等について解決していく必要がある。
②課題	事業としての採算性・地域で所有管理することへの法的な課題クリア	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	空き家対策を通じた地域資源の活用と経済循環と脱炭素化を図る	
④地域資源	家・地域・太陽・人・資金	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	・貸与する空き家：太陽光発電と蓄電池による台風時でも停電しない住居 ・第三者所有モデル設置業者：太陽光発電設備及び蓄電池の設置管理 ・自治会：事業運営による更なる暮らしやすい地域への貢献	
⑥担い手 (Who)	自治会又は島内事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	空き家→相続等による空き家化を遺贈・死因贈与により予防→地域で所有・管理→リノベーション等による家の保全→第三者所有モデルの設置→居住希望者へ貸与→運営主体への利益→事業による好循環の継続	プロジェクトへの伴走支援、社会的な取組として資金集めに関する専門的な知見、空き家や相続、不動産の管理について法的なアドバイスを行えるコンサルティング
⑧事業で生じる成果	空き家問題の解決、郊外における魅力的な住居の提供、新たな事業として地域経済循環を高める、太陽光発電設備・蓄電池の活用による台風時の停電への備え及び脱炭素化への貢献	